川越時間旅行 26

文化財保護課 Tel 224－6097

縄文人の住宅事情 ～堂山遺跡の発掘調査から～

堂山遺跡（吉田）は、今から約5000年前、縄文時代中期の集落跡です。この時代の住居は、地面を円形に掘りくぼめ、内側に柱をぐるりと巡らせ、梁・垂木を架けて屋根をふいた竪穴式です。中心には炉が設けられていました。

平成23年に行われた発掘調査では、住居跡の一つが増築されていたことが分かりました。この増築は極めて合理的に行われ、柱の位置をなるべく変えず、改修を最小限にとどめていました。また興味深いのは、炉の位置が家の中心になるよう造り替えられていたことです。この増築により、床面積は、31㎡から36㎡に増えました。

建築史家の関野克さんは、竪穴住居跡の床面積から居住人数を想定する試みとして、床面積を3で割り1を引くという計算式を提案しました。これによると、住居跡の最初の居住者は9人、増築後は11人となります。

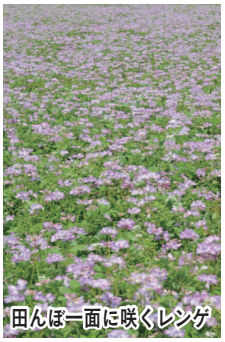
一般に母系社会で何組かの夫婦がともに暮らす大家族制であったと言われている縄文時代。この住居跡にどのような人々が住み、どんな理由で住まいのリフォームに至ったのか、遠古の川越への興味を抱かせてくれます。

増築されていた住居跡

レンゲ米

レンゲ米とは、田植え前の田んぼで育てたレンゲを肥料にして育てたお米のことです。

「多くの人にレンゲを楽しんでもらいたいと思い、レンゲ米を作り始めました」と話すのは関根武雄さん（古谷本郷）。今では10軒以上の地元農家がレンゲ米を作っています。肥料がレンゲのため稲が大きく育つ分、倒れやすくなり、レンゲの種のまき方や作付けする稲の品種などを工夫しながら育てているそうです。「レンゲ米のおいしさをたくさんの人に知ってもらいたいです」と話す栽培農家の皆さん。将来的にはブランド化を目指したいと抱負を語ってくれました。


田んぼ一面に咲くレンゲ

栽培方法の意見交換にも熱を帯びる農家の皆さん

古谷本郷のレンゲ米、秋には6haの田んぼで収穫が行われる予定です。

今が旬！5月の川越野菜　市内の直売所などで購入できます

フキ、チンゲン菜、キヌサヤ、キャベツ、ブロッコリー、ネギ、ホウレンソウ、コマツナ、トマト、キュウリ、カブ、大根、レタス、新タマネギ

編集後記 どんぐり

雲ひとつない青空の下、春の暖かさに誘われて市内探索に出かけました。ふと目を向けると、塀の上に薄いピンク色をした花を見つけ、近づいてみると先客が。小さい体をめいっぱい伸ばして花を見ている様子に思わずシャッターを切りました。女の子が夢中になっていた花はウコン桜。その色合いの上品さから「美人桜」と呼ばれることもあるそうです。日々気温も上がり、穏やかな新緑の季節を迎えています。散歩をしながら、草木や花との出会いを楽しんでみてはいかがですか。いつもと違う道を通ると、新しい発見があるかもしれません。

4月16日撮影

広報川越1318
■発行日／平成26年5月10日（毎月10日・25日発行）
■発　行／川越市　〒350－8601埼玉県川越市元町1丁目3－1　http://www.city.kawagoe.saitama.jp/
市役所代表 Tel049－224－8811　Fax049－225－2171
■編　集／広報室　　印　刷／㈲新広社

この印刷物は、グリーン購入法に適合する紙を使用し、印刷用の紙へ、リサイクルできます。リサイクル適性Ⓐ
私的利用の範囲を除き、記事や写真の無断転載を禁止します。